



Eldonos Koumukai
2-12-2 Anshimachi Abeno, Osaka,

10, AUG. '82 No. 261

ホーム通信

大阪市阿倍野区旭町2-12-2 向井 勇

▼ 8月になつた。あつとこまに9月がくる。そして今このところ、ほんがおえているのは、「(うなつと大げさにこつと)、ハーラーハラ大集会のことがかりも口にするへ連合」の具体化として「これほどしたくめ手で、わりで寒風じに」とはなかつたと田原。▼ ビラ、ポスター、Tシャツ、ハーラーニュース、その原稿書き、版下づくり、印刷、折りと裁断、封筒書き、発送や配布など、こなへ支援の支援者が思想として田原からばくわかひなかつたうへ從来連絡をうしてのふうにスムーズな準備の進行は不可能だつたにちがいなかつ。つまり、ウリ田原の「田どうぼくがじつ親にしてもうつてる若の友人たうが一人のこづす、この集会がへりにめくなつて加わつてくれていて、かうしての友人の友人たうとつづくつながりとして、それはへ支援の支援の支援...」とつづく人連合の具體化が、ハーラーハラ大集会の準備段階がうすでに実現してゐる。▼

① ② ③ ④ の立場 —ハーラーハラ大集会のやり方—

獄中の、大通寺・片桐・黒川・荒井や、二河・久保・久川、ハーラーハラ大集会にむけ、メシヨージや他のよう難ぐである。その注文が、ドヤルズ大通寺・原橋寺一枚半ぐう。至極ぐりの制約。一体どういう集会をやるつもりだろうと、いろいろ配かれてるがもしれない。それが

が度がたりだつたが、なかなか並んで平紙がかけなかつた。ずっと数日前を果したので、それを下敷きにして、しお進行してじるハーラーハラ大集会のやり方、つぶつ方につけての松原の一語をかく。

第一ではなく、連合こそ

▼ ふつう集会などと大体ペターンが並んでる。基調報刊一講演会などとパネルディスカッションの曾幾一宣誓会議

1. そして、だから参加者(連合)の性格などとか質も、はじめからきまつてしまつてもつともこのごろはすこしくだけて、前座にうござるがあつた。何とか大衆をもよびさせじと、いう苦心で、中間に映画を入れたり、シカウ的なめめはさんじりをするが、主催者の本音本意といふところはあつた。つまり、主催者の立場、考え方について連合の意図を知り、参加者は、必ずから領導されることを予期した。主催者の立場考え方には、その周囲の人疋ばかりとこうへんになる。たまたまにシヨウにつらつて来た人は、場らざるの空氣で居づらく、主催者は呼び込みながら、叫び出さうとしたとゆかつてさるわけだ。

▼ 今集会も、のどうなやつがちえあがすつたある怨り、じへくら歎かおじりで一般市民を説教あうとして、結果は同じにせいせう。つまり、ハーラーハラニーストール・西下段の分類の①CARAVAN(回遊劇團)の肝と主張に全的である。それへの若干の批判(小異)をも含めて書くべきをひととして、②CARAVANの肝と主張には批判があるが、反対、反対的立場から主張・主張しようとする人々(ある一部分)、そして③ある外側に対するものから、集合を支

とある「ちがこじへ、その内容は、(1)と(2)の文書を参考する。いは節合にみつて主導されるとなるがう。」
▼ ところが、この(1)集会は、古いものから(2)(3)(4)にいたるべく、何ひとつが(4)東アの街や主張について知つてないが、生徒組織のことはある。住民運動の分野が少く、なぜんとしたるが、一体どんなとおりにしたのか、どう(連合)をよせている人々の参加を期待し、設問している。(もしくは(3)のへき連合をよせるが、百五十以上、即ち会場の過半数が(4)といふことでは、それもあつて三五以上を四指す。どうして、つままり(4)の人達が百五十以上、即ち会場の過半数が(4)といふことになる。
そして(2)(3)のへきは、東アにつけにあしかのや備蓄課をもつた人達であるのに對して、(4)は今ま一耳びかけが届かず、無縁だつたのが、のうな機会として、その間じ、庄田がはじめて表出したる「へきを現するたまは、(1)集会は、何より(2)(3)の集会であります」とやばなうなじとつらう。創り出さねばならぬと、(4)をやれに因えて、(2)(3)の人がお

▼ ①②、そして③のへきの問題意識の特徴は、大状況的・島嶼的・史的・政治的・人類的・原則的・抽象的・觀念的などから出發する。それと対照的に、④は、身辺日常的・微視的・生活的個人的・具体的・感性的に問題をとらえ、かつ動く。両者の位置とうが立脚点は、その限りでは大きくなりて、あまりにも遠く、歩みよつて一致など、とうてい難むつ。だが、本来、一つの問題の正しさだらとは、その両者の視覚が重なつて、一つの像をもつぶことであつてゐる。たゞ、両者の一見・相違でた相違は、そのようにそれそのものとしてあることであつて、そのされが正しく、何れがすぐれていることじつとどくなつ。

もつと云ふと、その両者は、一つのたつの頭端を意味するものであつて、両端のひらきは、むしろへ幅(ノン)フロードである。ナーリがね、一つの体としての、一つは頭脳(ノン)とすれば、つはがた半・足のどき現象とたまつてもよし。それは、自分を幅(ノン)と金算出をしてしましきとつてゐることを忘れ、頭脳が半足(ノン)に、半足(ノン)は、半足の思想のみを唯一至上と思つてゐる。さうなれば、一箇の肉体として機能するのと似てゐる。

①②を、集会のへ幅(ノン)として、③の無念を、この両者、①②

れを運動の力として感ぜさせよう、といふものだ。

②③④を努力告白してかちあつて、集会を①の路線に一致させて進行する」というものでは決してない。

そのような、過去のすべてがとつてキドヤの方であつたへ統一志向的集会くに、きつぱりと断絶する、ということから、そもそも、5集会は出发している。そしてもつぱら①の又は②のが、集会とさうとも内面へむけて行使されてきた領導力(しばしば他派とくべぐモニ一争う)は、③と④をあわせたへ連合くにおいて、外にむけられに集会内容へ多様・多様性くとへ過量的極大くへと、あやに質的転換をするやうだ。

▼ 近ごろ、多様性はへ力くにならひわれる。が本当に多様性を保証するへ連合くは、戦争をもたらす存在である。それは便宣主義的共同であり野合的疑似連合である。そして眞正へ連合くが追及されないのは、依然運動内部には相強い統一信仰がはづくつており、その一方、多様性がへ力くであることが殆ど確信されていないからだ。そして皮肉にも、人民との連合一年多様性一をもつとも期末のわるいものとしておそれ・その力を、何よりもよく知つてゐるのは、実に、权力の側である。一権力の本来統一的物理力(集中)は、連合のゲリラ的非暴力(暴風)に充分対応できないところをあざめかれてこそこのことは明らかだ。

そして集会するならば、このことを直截に、説明なしで示すものとして、主催者名一東アジア反日武装戦線に連帯し、あるいは奥園を越えて支持支援し、または死刑重刑反対し、その他馬鹿でもなくともかく團結させねばならぬの大連合のーが、名付けられているのである。

ハラハラ木集会の①の位置

▼ 獄中の五人(大道寺・片桐・黒川・荒井さん及び太森さん)からも「ヘーメリセージ」につじて、にんばな長崎をわざわざ原稿紙に一枚半、ぐうじにとこう、キーワード無理難題と思われる本文にあらわれるのは何か、を説明しておかねばならない。これはシンポジウム①②③④の立場から発言する四人の提唱者が、やめ作文化しておく。枚数が、田一五枚目。発表時間五分以内という制約。あるじむ「一ヶ月アピール」といった形での限定などとも共通する。

もちろんこれは五人をはじぎしろにするものではない。会場の全員が獄中の五人を心底から受けとめるために、獄中者も又会場の参加者全員をまず受けとめるつもり、との立文である。▼ いまでもなく革命へ去りかゝって戦争としてもよいのは、①(又は②)だけであるのではないか・③④、そして④に徳くじとさば⑤⑥…といった人々との関連、あるしほ共にある。一とすれば、5集会に対する①(又は②)の努力は、何よりも、自分らのなかまうただけでなく、それ以上に④を象とする考慮によつて、④が一身上に登場する。こうう点にかけられねばならぬだ。

▼ 革命運動と市民(あるいは市民・市民運動)との離れたがいに相手の方へよつて、「へことあるよ」と、かれは、①(又は②)が、まさす④へとなつていくことである。

革命運動と市民(あるいは市民・市民運動)との離れたがいがつてこいる理由の一つは、①(又は②)の、発想として田中としての論理偏重主義がある、それはしばしば、状況の説明と分析、それ故に××でなければならぬことによる制戒的があ

つけの理論闘争とじて出てくれば、それと違う発想と思考をもつ者を「うやざわせる。

メリセージを細かく、とづらのほ、獄中者の①としての9.5への不注参加にあつて、④への配慮として、①の思考と、④の発想方法にせづける、といふ要請である。それは、論文をかねね正ものに、じわざり説、あるいは詩的発想でかけてうにひとしい議題だ。

にもか、わづか、②にてては、「自分の歌うのだけを無條件に他者へ去り、かせてよしとするのではなく、すみれも④にてすながら、とこく困難な条件を自分に課し、尚自分のおもひの下に④にどうべきかもうべつの違反こそが、運動であり闘争である」といふことだ。

「トレヒ・ラジオのコマーシャルは、30秒であつても、角がでれる者にとつては、とくともなく長い。だから宣伝マンは、その時内の制約下にどれだけのやうをあらわすか、にそのまじ、努力を集中する。もし時間制限がなければ、かくつて誰もコマーシャルをみないだろ。自らが課す制限、限定期は、むしろその質を深め高めるものに外ならぬ。」

そして、このような運動力が、5集会のすべてのプログラムで起々され徹底することと、集会は全く新しい規格、へ政治的大衆集会をはじめて創り出すことになる。そのことが又①にとつての(せん政)②(せん政)③(せん政)④(せん政)運動のみろがつになる。

× × × × ×

▼ ところで①②③④の分類は、もううんたらにかかるいろんな、立場を、すべてカバーするものではない。だから、シンポジウム委員会で、自分の立場をそれそれがまず表明してしゃべるとこくやり方をしたとき、「私は主婦として日常的に④、死刑廃止の会員として③、しかし全共同的願をもつもととして、心情的①」という風に、十数人の半数以上は二つ以上の立場と一緒に出でてきたり。(ちなみにほくす・①そして④である)

▼ これは分類の大ざっぱの問題であると共に、①へ④の、部分的には、対立、矛盾するような論理が、立場などると、実は併存している。とくより、ある時は①、ある時は②とこくようになりめれている。ちょうど時計の振子のような時間運動として、これは又、本音と見て前との、弁護法的往復運動ともいえる)、といふことだ。

▼ ごく図式的にざれ、①②の論るは、大状況的であつて、例をば「××である。故に日本を滅ぼす反日運動を開始しよう」が「では具体的に何をやるか」「どうするか」までの答を出しきらない。その答までの距離の遠き、むずかしいところが、運動の発端なりに、こつまでへ教訓へとれてはいるところとどがある。そして④は、直ちに今後をかるかの・むずかしさに立ちつてゐるか、やつやすことこうから手をつけてやうつとするといふことが、うまいにかけられねばならぬだ。

▼ 東アの戦士たうは、この①へ④の隔離と、爆破爆弾とくらがことこなとか。なんとかうどつた問題にあつて、「まうその「島」は、そこをうへ国有のものと、一人へ彼自身によつてあがれやがるうだ。東アの、命を殺さざへづつさうれた「示唆」。あって、実践はまたに次第環境條件など各種要件のもとに、その人固有のやり方として、創られる以外にならない。(あと五百字分位が略)